

「勉強って？」

驚きました。「勉強って？」への投稿は約1700通。300人の原稿を寄せて下さった学校もあります。「書く」ことに力を入れる学校が増えていると実感しました。ごく一部しか紹介できませんが、来週の「若い世代」でも掲載予定です。

若い世代 こう思う

漫画家志望 世界描く知識大切

高校生 井原 優月 (東京都 17)

漫画家をめざしています。美術の専門学校に進みたいと考えている私には、国語も英語も数学も受験勉強は必要ありません。

しかし、漫画は作者が作り出す世界です。作者の知らないことは、作品の世界に存在できません。作者の知識が少なすぎると、描ける世界は狭まります。

漫画の世界をより深めていくには、例

えば世界の多くの人々と交流して、様々な意見を聞くべきです。色々な立場から物事を見ることができるといいです。その時、外国人と話をしようと思っても、英語が身につけていないとコミュニケーションを取るのには難しいでしょう。これは漫画家だけに当てはまることではありません。勉強で得た知識は自分の力になり、必ず自分を助けてくれるはず。まずは、何事にも興味を持つことから始めたいと思います。

人間関係も恋愛も学びはある

中学生 須藤 心愛 (福岡県 13)

勉強する意味。ほとんどの人が一度は考えてしまうテーマではないか。「数学の公式なんて将来使わないでしょ」「日本人だから外国語は必要ない」。私自身、そんなふうにも思うこともあるし、周りでもそのような言葉を聞く。

けれど改めて考えてみれば、数学や理科など授業で習うことだけが勉強というわけではない気がする。例えば、社会に

出て学ぶ人間関係づくりも、立派な勉強だろう。恋愛もそうだ。交際を通じて、男女がお互いの違いを学ぶこともあるだろう。そう考えれば、意外に勉強も面白いものだ。「勉強」という言葉だけ聞くと、何か堅苦しいし、あまり好きになれない。でも、その言葉に含まれるたくさんのおもしろさに気づくことができれば、苦手な勉強だって少しは好きになれる気がする。その奥深さもまた、勉強の面白さだ。

嫌いだけど自分を強くする強敵

高校生 有本 朱璃 (広島県 15)

私にとって勉強は敵です。嫌いな、大嫌いな、倒せない強敵です。

成長するにつれて自分が強くなれば、敵は弱く見えるようになるはずなのに、なぜか敵も一緒に強くなっていきます。いつまでたっても倒せません。

でも、こいつと戦うからこそ自分は強くなっていくし、いろんなことが身につきます。だから、人生には欠かせない敵

です。

勉強はしないと生きていけません。勉強は自分が幸せになるためにします。立派な大人になるためには、勉強をさぼってはいけません。

私はいつか絶対、こいつに勝って、自分の夢をつかみ、幸せな人生にしたいです。そのためにいま、勉強という敵と向き合って、一生懸命に戦っていきます。

私にとって勉強は、大嫌いだけど欠かせない大切な敵です。

役に立たないが人生を楽しめる

大学生 ブロック 飛朗 (東京都 18)

なぜ勉強するか。それはシンプルに、楽しいからです。僕は文学部なのですが、なぜ文学部に入ったかということ、できるだけ就職に関係のない学部を選びたいと思ったからです。大金をはたいてまで、企業の研修期間のような4年間を過ごしたくありません。

文学部で学ぶことは、正直言って仕事の役に立たないでしょう。しかし、い

や、だからいいのです。役に立たないけれど面白い。これこそが勉強なのではないかと、僕は考えています。哲学や言語学、歴史学に異文化コミュニケーション。これらは学ばなくても生きていけます。でも、面白いのです。

人間は本来、知的好奇心に満ちた動物だと思います。知りたいから、知る。それを人間界では「勉強」と呼びます。勉強するのは仕事のためでなく、人生を楽しむためです。

「勉強」「学び」は「知識を頭に入れること」と思われがち。たとえば歴史は暗記科目と言われますが、歴史の勉強の本質は暗記ではありません。ある史実がどんな背景でなぜ起きたかを考え、現代の問題解決のヒントを得ることが大事です。学びとは熟達をめざす過程。熟達すれば、体得した生きた知識で臨機に対応でき、新たな発見・創造ができます。それには

今井むつみ・慶応大教授(認知科学)

学びは生きた知識の体得



その分野の知識だけではなく、幅の広さも必要です。すぐ役立つと思えないことも、究めたいことが見つかったとき、それにつながるかもしれません。たとえば、昔の人は意味が分からずとも、古典を暗記しました。頭の隅で意味を考え続けられ、後には身体の一部となり、思考の礎となったのです。学校の勉強はそうした「学び」の基礎作りの面もあるでしょう。

今回は「部活って？」

みなさんは部活動に参加していますか。部活への思いや悩み、入っていない理由……。400字以内にまとめ、住所、氏名、連絡先を明記して上記の投稿先にご送ってください。締め切りは6月7日。掲載は6月11日の予定です。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。